



珠洲市 オーガニックビレッジ

椿原しゅり 中田羽奏
高橋徳治郎 崔棟翔

1. 珠洲市の特徴
2. オーガニックビレッジの定義
3. 珠洲と他の地域の取組み
4. 有機農法のメリット
5. イタリアでの学び
6. 最終提案

こちらが本日の発表の目次です。

まず「珠洲市の特徴」についてご紹介し、
次に「オーガニックビレッジの定義」
3、「珠洲市と他の地域の取組み」
4、「有機農法のメリット」
5、そして「イタリアでの学び」
6と進み、最後に私たちからの「最終提案」をさせていただきます。

珠洲市とはどんな場所？

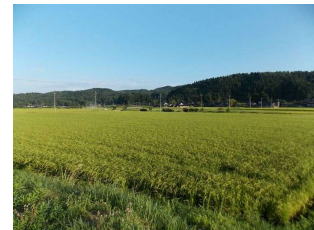


▲石川県の最北端に位置



◀観光地

農業▶



まず、私たちが今回注目した「珠洲市」についてご紹介します。

珠洲市は、こちらの地図にもあります通り、石川県の能登半島の最北端に位置しています。

豊かな自然に恵まれ、古くから農業が盛んな地域であると同時に、この写真（見附島）のような美しい景観を持つ観光地でもあります。

実際に珠洲市の農家を訪問



◀ 視察の様子（2025年8月8日）

私たちは調査にあたり、実際に珠洲市の農家さんである松本さんを訪問し、お話を伺いました。

これは、2025年8月8日の視察の様子です。現地の農業の状況や課題について、直接見聞きする貴重な機会となりました。

珠洲市と有機農業



▲2025年4月にオーガニックビレッジに加入



農業が盛んな珠洲市ですが、今年、新たな一步を踏み出しました。

2025年の4月に、農林水産省が推進する「オーガニックビレッジ」に加入したのです。

この「オーガニックビレッジ」という取り組みが、今回の私たちの発表の大きなテーマとなります。

オーガニックビレッジとは

オーガニックビレッジ (Organic Village) とは、有機農業の生産から消費まで一貫し、農業者のみならず事業者や地域内外の住民を巻き込んだ地域ぐるみの取組を進める市町村のことを指し、農林水産省はいま、このような先進的なモデル地区を順次創出し、横展開を図っています。

目標

令和7年度 (2025) までに
100市町村



令和12年度 (2030) までに
200市町村

現状

令和6年度 (2024) の時点
131市町村



令和7年度 (2025) までに
150市町村

まずはオーガニックビレッジの定義について説明します。

オーガニックビレッジは元々、有機農業の生産から消費まで一貫し、農業者のみならず事業者や地域内外の住民を巻き込んだ地域ぐるみの取組を進める市町村のことを指します。

日本の場合、農林水産省はいま、このような先進的なモデル地区を順次創出し、横展開を図っています。

オーガニックビレッジ実施地区

【R7.08.29時点】

○有機農業の面積拡大に向けて、地域ぐるみで有機農業の生産から消費まで一貫して取り組む『オーガニックビレッジ』を2025年までに100市町村、2030年までに200市町村創出することを目標に、全国各地での産地づくりを推進。
○令和3年度補正予算からみどりの食料システム戦略推進総合対策により支援を開始し、現時点で46都道府県150市町村で取組開始。

【実施市町村】



令和6年度131市町村
新たに19市町村
で取組を開始
令和7年度150市町村

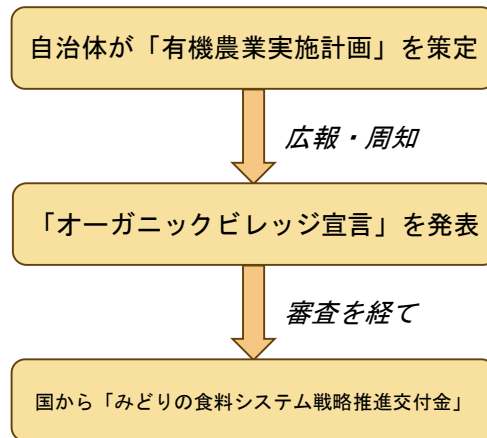
都道府県	市町村	都道府県	市町村
北海道	(5) 安平町、旭川市、新十津川町、赤井川村、滝川町	三重県	(3) 尾鷲市、名張市、伊賀市
青森県	(2) 黒石市、五戸町	滋賀県	(4) 甲賀市、近江八幡市、日野町、草津市
岩手県	(3) 花巻市、一関市、遠野市	京都府	(2) 亀岡市、京丹波市
宮城県	(4) 登米市、栗原市、大崎市、加美町	大阪府	(2) 堺市、泉大津市
秋田県	(1) 大潟村	兵庫県	(10) 豊岡市、丹波篠山市、養父市、丹波市、淡路市、神戸市、新栄市、加東市、上郡町、稲美町
山形県	(7) 米沢市、鶴岡市、新庄市、川西町、山形市、酒田市、真島町	奈良県	(3) 宇陀市、天理市、山添村
福島県	(2) 二本松市、喜多方市、会津若松市	和歌山県	(1) かつらぎ町
茨城県	(4) 常陸大宮市、石岡市、笠間市、かすみがうら市	鳥取県	(2) 日南町、八幡町
栃木県	(5) 小山市、市貝町、塩谷町、栃木市、大田原市	島根県	(5) 浜田市、大田市、邑南町、吉賀町、津江市
群馬県	(2) 甘楽町、高山村、みなかみ町	岡山県	(2) 和気町、新庄村
埼玉県	(2) 小川町、所沢市、まじなま市	広島県	(1) 神石高原町
千葉県	(7) 木更津市、佐倉市、神崎町、成田市、いすみ市、多古町、匝瑛市	山口県	(1) 長門市
東京都	(1) 企業区	徳島県	(2) 小松島市、海陽町
神奈川県	(2) 相模原市、小田原市	香川県	(1) 三豊市
山梨県	(1) 北杜市	愛媛県	(1) 今治市
長野県	(7) 佐野町、松川町、飯田市、飯綱町、伊那市、佐久市、長和町	高知県	(1) 馬路村
静岡県	(8) 掛川市、藤枝市、川根町、静岡市、富士宮市、島田市、伊豆の国市、小山町	福岡県	(2) うきは市、篠栗町
新潟県	(5) 佐渡市、新潟市、五泉市、阿賀野市、津南町	佐賀県	(2) 上峰町、みやき町
富山県	(2) 南砺市、富山市	長崎県	(3) 南島原市、雲仙市、五島市
石川県	(2) 珠洲市、羽咋市、白川町	熊本県	(3) 南阿蘇村、山都町、菊池市
福井県	(1) 越前市	大分県	(3) 佐伯市、臼杵市、豊後高田市
岐阜県	(2) 白川町、飛騨市	宮崎県	(6) 綾町、高橋町、木城町、えびの市、宮崎市、延岡市
愛知県	(6) 東郷町、南知多町、岡崎市、大府市、美浜町、武豊町	鹿児島県	(5) 南さつま市、湧水町、南種子町、徳之島町、姪良市

※下線は令和7年度開始地区

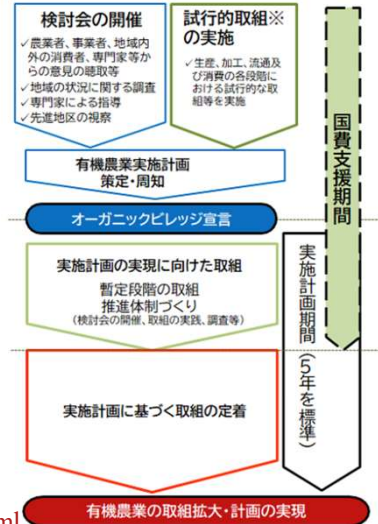
出典：https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/yuuki/organic_village.html

こちらは今の時点のオーガニックビレッジ実施地区の一覧です。沖縄以外の全都道府県に及び、皆さんの関心が高いという現状ですね。

オーガニックビレッジになるには



○ 事業の取組イメージ



出典：https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/yuuki/organic_village.html

オーガニックビレッジになるためには、まず自治体が「有機農業実施計画」を策定する必要があります。

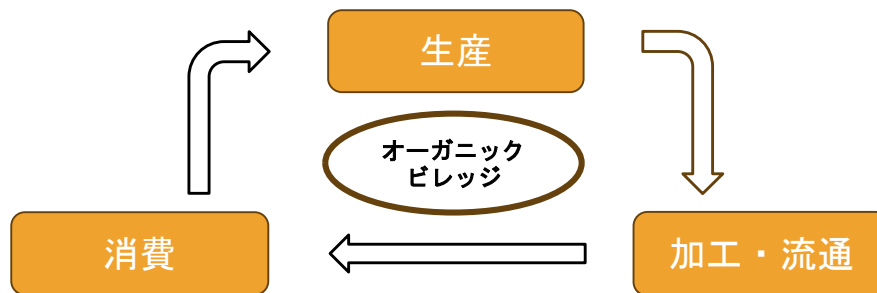
それを広報・周知してから、「オーガニックビレッジ宣言」を発表します。

最後は国の審査を経て、「みどりの食料システム戦略推進交付金」が交付されます。

オーガニックビレッジの目標

生産から消費までを包括的に捉える

⇒自治体、農家、企業、地域住民および非地域住民を巻き込みながら取り組む。



オーガニックビレッジの目標は、要するに、生産、加工と流通、そして消費までを包括的に捉えることです。

つまり自治体の一方的な施策でなく、農家、企業、地域住民および非地域住民を巻き込む取り組みです。

オーガニックビレッジになったら

Ⅰ 経済的影響

- ✓ 環境意識が高まると、有機農業に対する関心が増え、地域農業に新規参入者が増える。
- ✓ 付加価値の高い地域産品の生産と輸出拡大を通じて、農家の収入を向上させる。

Ⅱ 社会的影響

- ✓ 環境に配慮した有機食材を用いる商品と学校給食で、地域の魅力を高め、移住者誘致にもつながる。

オーガニックビレッジになると、次の影響が考えられます。

まず、「経済的影響」については、環境意識が高まると、有機農業に対する関心が増え、地域農業に新規参入者の増えることが期待されます。そして付加価値の高い地域産品の生産と輸出拡大を通じて、農家の収入を向上させます。

また、「社会的影響」については、環境に配慮した有機食材を用いる商品と学校給食で、地域の魅力を高め、移住者誘致にもつながります。

珠洲市の農業

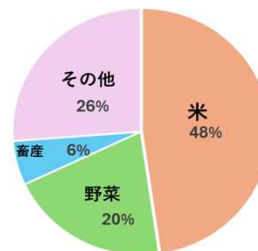
・ 耕地面積（2023）：1,950ha

田耕地面積:1,220ha
畑耕地面積: 727ha

・ 農業人口（2020）：1,028人

販売農家： 406人
自給的農家： 622人

・ 農業産出額（2022）：15.5億円



出典：農林水産省、(2023)、作物統計調査
農林水産省、(2020)、農林業センサス
帝国書院、(2022)、日本の統計

次に、珠洲市の農業の概要について説明します。

2023年の総耕地面積は1,950ヘクタールでした。統計によると2020年の総耕地面積は2,070ヘクタールだったのですが、この3年間で約120ヘクタール減少したことになります。この減少の要因として耕作放棄地の増加や農業従事者の減少が関連しているとみられ、地域農業の持続可能性に対する懸念が高まっているといえます。

また、2020年時点の総農業人口は1028人でした。震災後の統計はありませんが、農地の被害や農業離れの加速により、農業従事者数はさらに減少している可能性があります。2022年の農業産出額は15.5億円で、その約半分をコメが占めています。

珠洲市が直面している課題

農家の高齢化と後継者不足

↳ 耕作放棄地の増加

↳ 獣害による作物への被害



震災によってますます深刻に...

3日間の能登研修を通して、珠洲市を始めとする奥能登地域は農業従事者の高齢化と後継者不足という深刻な課題を抱えていることが分かりました。

高齢化が進み、農業を辞める人が増えることで耕作放棄地が増加し、耕作放棄地にイノシシなどの動物が侵入してくることで近隣の田畑にも被害が及ぶようになってしまいます。

また、震災の影響を受けて農業を辞める人が増えており、これらの被害がもっと深刻になっていくことが考えられます。

珠洲市の宣言

- ... 環境にやさしい技術の定着、消費者ニーズに対応した安全・安心な米づくりなど
「環境と調和した米づくり」を推進するとともに、引退競走馬の利活用事業による有機堆肥の開発に取り組みながら、自然と共生する持続可能なまちづくりを目指すため、ここに、「オーガニックビレッジ」を宣言します。

出典：<https://www.city.suzu.lg.jp/soshiki/7/21576.html>

このような厳しい課題に対し、珠洲市は2025年4月、「オーガニックビレッジ宣言」を行いました。

この宣言では、安全・安心な米づくりなど、「環境と調和した米づくり」を推進することが掲げられています。

特徴的な取り組みとして、引退競走馬の利活用による有機堆肥の開発にも触れており、自然と共生する持続可能なまちづくりを目指しています。

珠洲市の取り組み (R7-R11)



有機農業セミナーの開催
と栽培体系の確立



学校給食への有機農産物
の供給と食育活動



有機農産物の流通販売と
消費の検証



有機農産物の認知度向上及び
理解促進に向けた周知活動

珠洲は、そこでの有機農業の規模を拡大するという5カ年目標を持っており、それには4つの主要なテーマがあります。

- **1つ目**：個々の有機農業技術の向上
- **2つ目**：堆肥のような有機資材の供給体制の整備
- **3つ目**：有機農産物の安定した価格設定と販路の確立
- **4つ目**：高品質な有機農産物の集荷システムの構築

これらの取り組みを通じて、珠洲は（地域の）第一次産業の活性化に重点を置いています。

珠洲市の目標

取組内容	現状（R4年度）	目標（R11年度）
有機農業面積拡大 （水稲）	0 ha	3 ha
有機販売量拡大 （水稲）	0 t	10.6 t
有機農業数 （水稲）	0 人	4 人

出典：<https://www.city.suzu.lg.jp/soshiki/7/21576.html>

これらの取り組みを通じて、珠洲市は令和11年度までの具体的な数値目標を掲げています。

特に水稲において、令和4年度時点でゼロだった有機農業の面積を3ヘクタールに、有機販売量を10.6トンに、そして有機農業者の数を4人に増やすことを目指しています。

まずは小規模からでも、着実に有機農業を地域に根付かせていこうという計画です。

他地域の取り組みは？

(1) 生産段階での有機農業

- ・ **有機JAS認証**の推進 → 例) セミナーの開催、認証取得費用の支援 (青森県・黒石市)



- ・ 「有機」「オーガニック」などの名称での製品表示
→ 認証のない有機JASマークの表示は
法律で禁止されている

- ・ **新規有機農業者**の誘致と育成 (岩手県・一関市)
- ・ **有機資源**の利用促進 (福島県・喜多方市)

では、他の地域の取り組みについて一緒に見ていきましょう。

まずは生産段階について、有機JAS認証の推進、新規有機農業者の誘致と育成や有機資源の利用促進などが行われています。

(2) 有機農産物の流通・加工・消費などに向けた取り組み

- ・ **給食**に有機作物を使用する（熊本県・山都町）
- ・ **イベント**の開催、参加（秋田県・大潟村）
- ・ **SNS**の活用（静岡県・掛川市）
- ・ **ECサイト**の開設（長野県・辰野町）
- ・ 市民参加型の**田んぼ学校**、**野生動物調査**
（富山県・南砺市）

山都町 ▶



◀ 南砺市

そして、流通、加工や消費などについては、給食に有機作物を使用する、イベントの開催と参加、SNSとECサイトの活用などが挙げられます。

また、隣県である富山県の南砺市では市民参加型の田んぼ学校、野生動物調査が多くの参加者を集めました。

比較と評価

珠洲市の取り組み→他地域と大きな違いはない

But…

- ・ 珠洲市は有機JAS認証を推進していない
- ・ 珠洲市は市がECサイト経営していない

これらは多くの自治体が行っている

他地域の特徴的な取り組み

- ・ シェフを呼び、地域の有機農作物を使用した試食会を開催する
- ・ 農林水産省の「みえる化」ラベルの使用

珠洲市の取り組みは一見、他地域と大きな違いはないようですが、珠洲市は有機JAS認証やECサイトなど、ブランド力の向上につながる取り組みを推進していない。また、市民の認知度・参加度が足りないのも課題だと考えます。

有機農業

「有機農業の推進に関する法律」による有機農業の定義：

- 化学的に合成された肥料及び農薬を使用しない
- 遺伝子組換え技術を利用しない
- 農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減する

→環境への配慮を重視し、持続可能な農業生産を目指す方法

参考： <https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/yuuki/#organic-farm>

次に、有機農業の説明をします。

法律で定められている有機農業の定義によると、化学的に合成された肥料および農薬を使用せず、遺伝子組換え技術を利用しないこと、そして農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減することが有機農業の基本とされています。

このように、有機農業は自然の力を活かした生産方法を採用することで、環境保全や持続可能な食料供給を目指す農業として位置づけられています。



次に有機農業による環境、消費者、生産者へのメリットをまとめました。

環境へのメリットとしては、土壌や水質が汚染されにくいこと、生態系が守られ生物多様性の維持につながることで、さらに土壌が炭素を蓄えやすくなるため CO₂ 削減に寄与することなどが挙げられます。

消費者にとってのメリットは、安心・安全で味や栄養価が高い食品を手に入れられる点に加え、近年注目されているエシカル消費の実践にもつながる点です。

生産者にとってのメリットとしては、有機農産物として高い付加価値をつけて販売できること、豊かな土壌で持続可能な農業を行えること、さらに有機農業の需要が高まっていることなどが挙げられます。

○国内での有機食品の需要は年々上昇傾向にある

推計年度	2009年	2017年	2022年
日本全国の有機食品市場規模の推計値(円)	1,300億円	1,850億円	2,240億円

2009年は、IFOAM ジャパン/オーガニックマーケットリサーチプロジェクトによる推計を、2017年は、農林水産省「有機食品マーケットに関する調査」による推計、2022年は、農林水産省「有機食品市場規模及び有機農業取組面積の推計手法検討プロジェクト」による推計を基に作成

こちらは日本国内での有機食品市場規模の推移を表したものですが、2009年の1,300億円と比較すると、2022年には2,240億円と約1.7倍に拡大していることが分かります。

このことから、消費者の健康志向や環境への関心の高まりを背景に、有機食品への需要が着実に増加していることが読み取れます。

イタリアでの学び



◀ ウンブリア州
ペルージャ
(9/4~9/7)



ここからは、イタリア研修での学びについてお話しします。

イタリア研修の中で、9月4日から7日にかけてイタリアのウンブリア州ペルージャを訪れ、3日間オリーブオイルやワインなどの伝統的な農業について学びました。

ファームステイ

・ファームステイとは？

→農家や農園（ファーム）を持つ人の家に泊まり込みをすること

【メリット】

- 農業を通して、その地の暮らし・文化を体験できる
- 自然が近い環境で暮らせる
- 現地の人との出会い

・ファームステイの種類

- ①農業体験（観光者として）
- ②無償労働（ボランティアとして）
- ③有償労働（労働者として）



【参考】 spaceshipearth.jp/farm-stay/

そして、現地にあるコスタンツァさんの家にファームステイしました。ファームステイというのは、農家や農園（ファーム）を持つ人の家に泊まり込みをすることです。

メリットとしては農業を通して、その地の暮らし・文化を体験できること、自然が近い環境で暮らせること、現地の人との出会いが挙げられます。

またファームステイの種類は、観光客としての農業体験、ボランティアとしての無償労働、労働者としての有償労働があります。



▲家庭菜園体験

▼餌やり体験



農園では、家庭菜園で育てている野菜の収穫や苗植えをしたり、鶏の餌やりなどの農場体験を行いました。



▲オリーブ畑における有機農法

また、農園のオリーブ畑を見学させていただき、農園で行っている有機農法について学びました。

最終提案

珠洲ファームステイ

- ①短期的な農業体験・観光
- ②長期的な担い手育成



【出典】 Google Gemini

能登研修・イタリア研修を受けて、
私たちは『珠洲ファームステイ』を提案します。

私たちは珠洲市でのファームステイに

- ①観光的な側面をもつ短期的な農業体験
- ②長期的で担い手育成

という二つの目的を持たせることを計画しています。

①短期ファームステイ

【農業体験・観光】

- ・子供の食育
- ・農業を観光資源として捉え、地元経済を活性化させる
- ・有機農業のメリット、地元食材・有機農作物のPR
- ・若い人材が担い手となる可能性を高める

○期間は1泊～3泊を想定



【出典】 Google Gemini

①短期ファームステイについて

農家民宿のように、観光客をターゲットし、珠洲市の持続可能で伝統的な農法による農業を体験してもらうことを想定しています。

これは主に観光客をターゲットにしており、子どもの食育や、宿泊を通じた地元経済の活性化を促します。

また、この短期ファームステイは有機農作物や、有機農法のPRにもつながると考えられ、珠洲市での観光を楽しみながら、珠洲市に興味を持ってもらうきっかけにもなると考えられます。

②長期ファームステイ

【担い手育成】

- ・農家と長期ファームステイ参加者のコミュニケーション
- ・伝統的技術の伝承
- ・農業のデジタル化を促す
- ・有機農法への挑戦

○期間は1か月～半年を想定



【出典】 Google Gemini

②長期的なファームステイについて

一ヶ月や半年という比較的長すぎない期間による担い手育成を想定しています。

これにより、能登への移住を考えている人や、農業に興味がある人と現地の農家さんをマッチングさせ、二者間のコミュニケーションを促すことで新規農業従事者の参入が期待できます。

また、農家さんからは伝統的な農法の伝承を、参加者からは伝統を守りつつ、例えばデジタル化であったり、機械化であったりといった、負担を軽減する技術の提案をしてもらうことで双方に価値のある農業体験を目指します。

そして、新規農業従事者を巻き込んで有機農法にチャレンジすることで、伝統を維持するだけでなく、新たな技術による洗練された農法が生まれると考えられます。

このように、珠洲ファームステイは世界農業遺産の趣旨である伝統の動的保存を意図するものです。